デジタル教科書指導案／地理的分野

1．題材　p.116-117　ブラジルにみる開発と環境保全

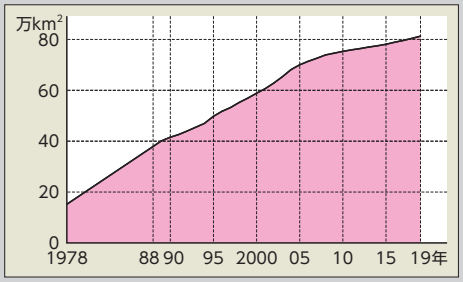
2．目標　(1)　アマゾンの開発が地域の環境や人々の生活に与えた影響について、図やグラフの読み取りから理解することができる。

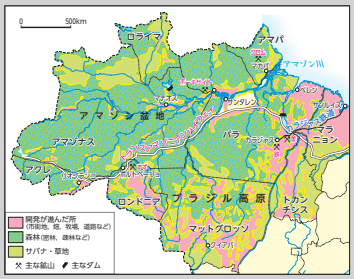
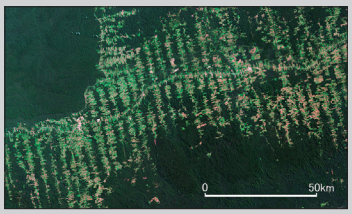
(2)　開発と環境保全の両立について、主体的に追究することができる。

3．章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・アマゾンの熱帯林開発とその保全の取り組みについて、資料を読み取り、理解している。
思考・判断・表現	・環境保全をめぐる新たな課題について多面的・多角的に考察している。
主体的に学習に取り組む態度	・環境問題に関心をもち、開発と環境保全の両立について、主体的に追究しようとしている。

4．指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点（○）･指導のポイント（◆）
導入	1．「熱帯林を切り開いてつくられた牛の放牧地」を題材にし、本時の課題をつかむ。	p.116 1	○　牛の放牧地の写真を見せながら、本時への導入を図る。
	2．熱帯林の開発が、なぜ問題になっているのか予想し、学習課題への見通しを持つ。	牛の放牧が行われているのはどのような場所だろうか。 熱帯林の開発が、なぜ問題となっているのだろうか。	○　写真を見て気付いたことや、熱帯林の伐採に関して知っていることを自由に発表させる。 ○　「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
	学習課題：アマゾンをはじめとするブラジルにおける開発は、地域の環境や人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。		
展開	3．ブラジルにおける熱帯林の開発の現状を理解する。	 p.116 3 なぜ、アマゾン川流域の森林伐採面積が増えているのだろうか。 森林伐採によってどのような問題が起こるだろうか。	◆　アマゾンの熱帯林の伐採は、木材の輸出や、跡地を牧草地や畑に転用し、肉牛の放牧や大豆の栽培をするために行われていることを理解させる。 ◆　熱帯林の伐採は、地球温暖化の進行や生態系の破壊、先住民の生活の場所が奪われるなどの影響を与える恐れがあることに気付かせる。

展開		 p.117 4 高速道路や鉄道は何のためにつくられたのだろうか。	○　高速道路や鉄道の建設目的を考えさせる。 ◆　伐採した木材の運搬のほか、開拓や生活に必要な物資を運ぶ目的もあったことに気付かせる。
	4．環境保全をめぐる新たな課題と解決策を考察する。	 p.116 3 上空からこのように見えるのはなぜだろうか。	◆　整備された道路からさらに外側に向かって、線状に伐採が進んでいることに気付かせる。 ◆　熱帯林を保全するため、保護地域の指定や人工衛星からの監視などの取り組みが行われていることを理解させる。
		  p.117 6 p.117 5 ガソリンと一緒に売られているのは何だろうか。 バイオ燃料の利点と課題を挙げてみよう。	○　バイオ燃料の利点と欠点を考えさせる。 ◆　二酸化炭素の排出を抑えられる利点がある一方で、さとうきび畑をつくるために草地が開発されたり、雨で土が削られる環境問題が発生したりしていることを理解させる。 ◆　等高線耕作などの工夫がなされているが土壌侵食を防げていないなど、新たな課題について主体的に考えさせる。
整理	5．本時のまとめをする。	**環境保全をめぐる新たな課題にはどのようなものがあるのか、説明しよう。**	◆　二酸化炭素の排出量が少ないバイオ燃料で走る自動車が普及したが、そのバイオ燃料を増産するためにさとうきび畑の開発が進められているなど、新たな環境問題が発生していることを説明できたか確認する。
	6．学習課題への振り返りの活動を行う。	「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。	○　「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。
節の振り返り	7．「節の問い」への振り返り活動を行う。	南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。 この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えてみよう。	○　「節の振り返り」へ記入させ、次節の学習へつながりを持たせる。